

海外交流研修

フィンランド 令和元年六月三日〜七日

中郷南保育園 園長 瀬川 尊也

七月三日から七月七日まで海外交流研修でフィンランドに行きました。国連の幸福度ランキング二年連続一位、北欧は教育先進国と言われていることもあり、非常に楽しみな視察でした。

まず保育園を視察しました。以下、その特徴を箇条書きで列挙します。

- ・定員一〇〇人。二〇一二年開園。七時〜一七時まで開園。
- ・殆どが自治体の運営。職員は公務員。
- ・七〜八人のグループに分けて活動
- ・一クラスに一人は幼稚園教諭が入り、その人が計画を立てる。



- ・活動↓休憩（くつろぎ）の時間を意識している。
- ・保育園にソファが点在しており、くつろぎを意識している。

- ・園児と職員 の割合、三歳以上児↓八対一、三歳未満児↓四対一。

- ・ネガティブより（これは やっちゃダメ）ポジティブ（得意なことを伸ばす）個別計画を立てることに意識。（親と一緒に作成）



- ・移民、難民の子どももいる（その人たちに対応する為の職員研修がある）
- ・場所によっては六〇%以上外国人の園もある（貧しい地域）
- ・七月はフィンランド人が長期休暇に入るため保育園は休園。六月は片付け期間。
- ・全部で五クラス。六歳児クラス（プレスクール。フィンランドは七歳〜一六歳までが義務教育）一つ。三〜五歳児クラス二つ。

- ・三歳以下クラス一つ。障害児クラス一つ。
- ・障害児クラスは一六名、うち実際の障害児は六名、健全児一〇名。ノーマライゼーション（平等に教育を受ける権利）の観点から一緒に学ばせている。重度は別。
- ・運動、お遊戯、遊び、コミュニケーション能力に力を入れている。
- ・ただ遊ばせるだけでなく計画を立てて、遊びの意義と狙いを意識する。





・おもちゃなど物を大切にす
 るよう
 教えて
 いる。
 ・雨でも
 外に出
 る。保
 育園に
 スキー
 場の乾
 燥室の
 ような
 設備が
 ある。
 自然でし

・山や公園などによく遊びに行く。自然でしか学べない事も多いとのこと。
 ・プレスクールは一日四時間の勉強。
 飽きないように体を動かしたり遊びを取り入れたりしながら。
 ・お昼寝あり。日本の事情とほぼ同じ。(年齢が上の子ほど昼寝しない)
 ・朝早く来た園児には朝食あり。(軽くおかゆなど)
 ・給食は無料。
 ・机と椅子が大人向けの高さ。
 次に国家教育委員会を視察しました。印象に残ったことを列挙します。



・国と自治体が大まかな計画を立て、実際の内容については現場に任せる。
 ・先生たち用の指針の教科書がある(参考程度に)
 ・フィンランドはPISSAの成績がいいが、国としては意識していない。
 ・それよりも現代に対応できる人間が育って欲しいと思っています。(社交性や協調性など)



・勉強では一応算数に力を入れている。
 ・保育園から義務教育終わりまで担当省庁が同じなので一貫した教育理念やグラウンドデザインがある。
 最後になりましたが、企画や視察先で動いてくださった海外研修委員の皆様、また協力していただいた先生方、そして参加の皆様、本当にありがとうございます。今回の海外研修を糧に、来年度の海外研修は、より良いものを提供できればと考えていますので、今後も先生方のご指導ご鞭撻のほどを、よろしくお願いいたします。